

それぞれの音を響かせて

本市には、音楽に深く関わっている人たちがたくさんいます。音楽は心を豊かにし、生活に潤いを与えてくれます。そんな音楽に携わって活躍している人たちに、音楽への想いを聞いてみました。

前橋第九合唱団テノール担当

南町二丁目

大谷 卓士さん 26歳

しっかりと歌い上げたい



本市の年末の風物詩、前橋第九合唱団の演奏会。ことは12月8日(日)、午後2時にベイスシア文化ホールで行われます。同団は今年で結成41年。市民にもしっかりと定着しています。団員は高校生から86歳までの約220人。老若男女が演奏会に向けて、練習を重ねています。大谷卓士さんは中3から同団に参加し、今年で11年目。テノールを担当しています。



幅広い世代の人たちが心をついに合唱

「クラシックが好きで、第九を歌うようになりました。今年は社会人となって1年目の節目の年。しっかりと歌い上げたいです」
5月から毎週火曜の練習で腕を磨いてきたそうです。演奏会まであとわずか。
「テノールは全体の土台だと思っています。演奏会では、土台としての役割をしっかりと果たし、活躍したいと思っています」

こんな人たちも活躍

仲間が集う歌声喫茶

毎月第2火曜の午後2時に国際交流広場（千代田町二丁目）で、歌声喫茶が開催されています。開催は100回を超え、来年は10周年。アコーディオンの調べに乗せて、なつかしの曲などを楽しみながら歌っています。



ジャズ喫茶ダウンビート経営

本町二丁目

諸橋 嘉明さん 64歳

明るく笑顔になれる



馬場川通り沿いの一角で営業しているジャズ喫茶「ダウンビート」。毎週月曜と第2・第4金曜の夜にはジャズの生演奏をしています。演奏時間になると、奏者が楽器を持ち寄り、独特のリズムを店内に響かせます。同店が開店したのは昭和49年。以来、本市のジャズの愛好者に親しまれています。オーナーの諸橋嘉明さんは、以前は東京でプロとしてベースを演奏していた実



力者。店を訪れると、レコードジャケットやピアノ、ドラムなどが雰囲気盛り上げます。「ジャズ喫茶を開いたのは、ジャズが好きでいつも触れていたから。誰もが気軽に聴くことができる音楽です」
諸橋さん自身も演奏に加わり、ベースのほかギターやピアノで参加。オリジナル曲の作曲・演奏もするそうです。一見寡黙のように見える諸橋さんですが、ジャズの話になると、楽しそうに笑顔で語ってくれます。
「何よりも、ジャズは聴いた人が明るく笑顔になれるんですよ。たくさんの人にジャズを楽しんで欲しいですね」

三味線奏者

千代田町三丁目

牛込 幸子さん 71歳

一生勉強です



昭和39年に花柳界に入った牛込幸子さん。芸者として、三味線の音色を奏でています。「私が三味線を弾くようになったのは、『和』のものが好きだから。弾き方が決まっています、アドリブができないのが難しいんです」
牛込さんがこの世界に入った頃は、本市に48人いた芸者も、現在では7人。以前は馬場川通りの小料理屋などから、三味線や鼓などの音が聴こえてきたそうです。
「三味線は奥が深いんですよ。うまく弾けても、まだその先があるんじゃないかって



昭和40年ごろの様子(牛込さん提供)

思えるんです。一生勉強ですね」
本市の音楽のこれからについて質問すると、牛込さんは嬉しそうに答えてくれました。「いろんな人が集まって新しい音楽をつくるのはとてもいいことだと思います。もちろん、古き良きものを楽しむことも大切だと思いますけどね」